

令和5年度 地域福祉活動支援事業 ホームページ用報告書

神奈川県社協ホームページに掲載しますので、助成事業の概要を簡潔に記入してください。

※必要事項を記入または☑ 1ページ以内に収まるよう作成

団体名	NPO 法人アレルギーを考える母の会		
団体の属性	☑セルフヘルプグループ・当事者等		□ボランティアグループ等
	□市町村社協やそれを構成員とする実行委員会等		
助成区分	☑一般助成	□協働モデル助成	協働モデル助成 本会提示テーマ
助成事業名	小規模研修会・相談事業		
事業の目的	要請のあった現場に出向き、親切丁寧な研修会・相談会を実施して正しい理解の普及と課題解決を図る		
事業概要	<p>○相談対応 年間約 400 人から延べ 2000 件ほどの相談に対応。一日も早い健康回復と課題解決のため必要に応じて専門医への橋渡しも。当事者、学校、保育所だけでなく市町村社協や保健センターからも相談が増えた。</p> <p>○要請を受けて実施した学校、幼稚園、保育所、保健センターなど向け研修会を 6/28、7/8、7/20、7/28、9/13、12/12.3/13 計 7 回で参加者 245 人。このうち 7/8 尚花愛児園、第二尚花愛児園（横浜市港北区）の研修会を神奈川県立こども医療センター副アレルギーセンター長の高増哲也先生にご担当いただき大好評。同園で 11/8 子育て支援講座「かゆいのかゆいのとんでいけ」には 13 組の親子が参加し楽しんでいただいた。</p> <p>○7/9 災害対策、12/9 入園入学をテーマにした海老名で 2 回の講演会には 150 人が参加した。</p> <p>○9/2 横浜、12/9 海老名の講演会、計 150 人には展示と相談対応で協力した。</p> <p>○3/9「アナフィラキシー親子のための懇談会」を市民活動センター「みなくる」で開催。患者（保護者）や行政関係者など 30 人が 10 時～16 時まで講演、質疑、交流を行った。冒頭、母の会事務局長が「患者の視点で考える、今必要な施策」と題して報告。講演は国立成育医療研究センターアレルギーセンター・総合アレルギー科診療部長、福家辰樹先生の「アナフィラキシー・重症食物アレルギーからの脱却のために今出来ること、大切なこと」、厚生労働省がん・疾病対策課課長補佐の中山幸量氏が「厚生労働省におけるアレルギー疾患対策」、日本ハム株式会社執行役員・品質保証部長の大石泰之氏が「日本ハムグループの食物アレルギーの取組み」、患者の保護者が「アレルギーの子どもを海外に送り出すこと」、当事者の代表が「やりたいことをやるための治療。やりたいことを、なんでもできる今」をテーマに話し、治療の進歩を知り、重症事例の患者家族であっても希望の持てる将来像を描けるし、前向きに治療に取り組めるとの明るい声が寄せられた。</p>		
成果や課題	研修会や講演会に母の会がかかると専門医の話もより分かりやすく、資料も充実しており満足度は高いようだ。医療を選ぶ目の持てる市民になるためには、「発症予防、重症化予防」の取り組みが欠かせない。		
今後の展望	これまで研修の蚊帳の外にあった行政の保健師、助産師、栄養士や赤ちゃん訪問に従事する民生委員などに向けたわかりやすく対応能力を高め、業務に役立つ良質な研修が欠かせない。		
活動の様子が分かる画像 2 枚程度添付			
	7/28 相和私立幼稚園協会「症状チェックシート」で確認しながら実習		3/9 対面で行った「アナフィラキシー親子のための懇談会